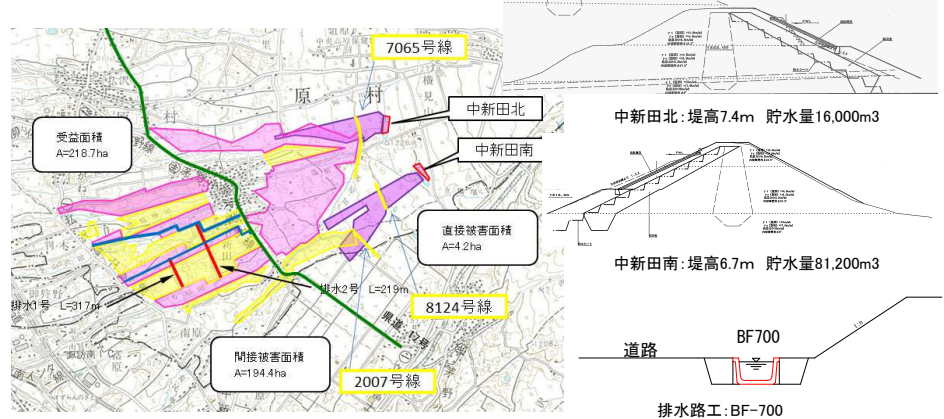


(様式2)新規評価シート

農政部 農地整備課

事業名		県営農村地域防災減災事業(ため池補強)		路河川名等				
事業毎の通番		5		市町村名		原村		
事業目的		老朽化し早急に整備が必要である本地区のため池は、平成25年度に一斉点検を行った結果、堤体及び洪水吐は断面が不足し、また、堤体法尻からの漏水が顕著となっており、豪雨時の安全が確保されていないことが判明した。さらに、御射山地区の畑地帯では、降雨時の排水量の増加に伴い毎年のように溢水被害が生じている。これらの施設を管理する中新田に存する原村は、東海地震防災対策強化地域にも指定されており、耐震対策を併せ、2箇所のため池及び排水路の改修を行い、農業生産の維持及び農業経営の安定を図り、災害の未然防止による、地域の防災安全度の向上を目的とする。		箇所名(ふりがな)		中新田(なかしんでん)		
しあわせ信州創造プランにおける位置付け		1-3 夢に挑戦する農業(自信と誇りを持てる信州農畜産物の生産)		事業実施の根拠法令等		土地改良法		
関連する事業、計画等		特になし						
保全対象・範囲		ため池 N=2箇所、排水路 L=536m						
受益対象・範囲		農地 A=217ha(ため池:197ha、排水路:20ha)						
着手年度		平成28年度		事業期間		5年間		
完成年度(見込み)		平成32年度		費用対効果		2.0		
全体事業内容(主な工種)		ため池改修工 N=2箇所 排水路工 L=1000m		事業費(千円)		300,000		
年度事業内容(主な工種)		測量試験費 一式		国庫		150,000		
事業効果		直接的効果(定量的・定性的)		作物生産効果 災害防止効果		63,000		
		間接的効果(定量的・定性的)		営農経費節減効果 維持管理節減効果		78,000		
必要性		○ 人家戸数 : 27戸 ○ 公共施設数 : 村道2007号線、7065線、8124線 ○ 農地面積、農業用施設 : 保全すべき農地10ha以上又はかんがい受益10ha以上の農業用施設 ○ 要配慮者利用施設等の有無 : 有(重要施設)		評価		A		
重要性		○ ため池依存度 : 依存度 大 ○ ため池受益面積 : 197ha ○ 地域防災計画上の位置づけ : 県の地域防災計画に位置付けている		評価		A		
効率性		○ 費用便益比(B/C) : 1.2以上 ○ 事業期間 : 5年間(H28~H32) ○ 工法等の比較検討 : H27計画策定事業で検討を実施済		評価		A		
緊急性		○ 危険度調査結果 : H25にため池一斉点検業務委託で調査した結果、各施設の断面不足等が判明 ○ 過去の被災履歴 : H25.9台風18号時に畑地帯の耕土流失及び畑への浸水・土砂流入被害有 ○ 応急対策の実施状況 : H26.4漏水に対する応急工事		評価		A		
計画熟度		○ 事業情報の共有 : H25.8 中新田区及び村と協議、H26.4 応急工事後の点検 ○ 地域の取り組み : 中新田区が低水管理を実施 ○ 地域の合意形成 : H26.4 応急工事後の点検実施後に中新田区から要望あり ○ 住民との協働 : 中新田区民によるため池堤体の草刈を年3回行う際、ため池の変状を住民自ら確認するなど、ため池に対する意識が高い地域である。		評価		A		
部意見		災害発生時の下流域への被害は甚大であることが予想され、被害を未然に防止するためには、早急な対策工事が必要である。		行政改革課意見		耐震調査の結果、堤体が耐震性を有していないことが判明している。地震時など、下流域への影響も大きいことから、必要性、重要性が高く、緊急性も認められる。		
				評価結果		総合評価		
						A		

【位置図、平面図、構造図等】(縮尺任意)



【整備の必要性がわかる状況写真等】



①事業実施に至る歴史的経緯・社会的背景	中新田北ため池は昭和12年に、南ため池は昭和25年に築造され、北ため池は昭和50年代、南ため池は昭和40年代に改修が行われているが、近年、堤頂部の沈下による変形や洪水吐の老朽化、堤体下流法尻からの漏水が著しい。また御射山地区の畑地帯では、排水量の増加に伴い畑に土砂が流入する被害が頻繁に発生しており、早急な対策が必要となっている。
②地域からの要望経緯及び地域の関わり	平成25年度にため池危険度調査を行い、危険度の判定が高かったことから、また、畑地帯では頻繁に畑への土砂流入被害が発生していることから、一体的な改修の要望が高い。
③事業説明等の経緯	施設管理者に対して、危険度調査に際し現地調査や説明会を行い、事業推進について合意を図ってきた。今後、地域住民等を対象に説明会を実施して事業の理解を深めていきたい。
④他事業・プロジェクトとの整合、関連	特になし
⑤自然環境・生活環境への影響と配慮	本地区の2ため池は原村にあるため池の中でも規模が大きく(村全体の15%の受益をカバー)、消防用水等生活用水としても利用されており、この池に支障が生じた場合、地域の営農や生活に大きな影響を及ぼす。また、これらのため池は別荘地内に存しており、環境面からも影響が大きい。
⑥地域活性化への影響と配慮	上述のとおり別荘地内に存する2ため池は、観光資源としての有効活用が見込まれる。
⑦その他	特になし
事業代表地点の緯度経度(南ため池)	
北緯:N 35度57分18秒	
東経:E 138度15分48秒	